

## 社会福祉学科 卒業論文の評価基準

### I. 評価の項目と基準

卒業論文の評価項目は、「論文」、「研究のプロセス」、「口述試問」の3項目とし、それぞれの評価基準を以下に示す。

#### 1. 「論文」の評価基準

以下の細目のすべてが満たされている場合、合格とする。

- ①定められた様式\*に則っている。
- ②研究の表題及び構成が適切である。
- ③研究の目的とその社会的背景が示されている。
- ④研究の内容が具体的に示されている。
- ⑤調査、事例研究、文献研究などで得られた結果についての考察が示されている。
- ⑥研究で得られた成果が、簡潔にまとめられている。
- ⑦文章は、文法、用語、表現ともに適切であり、論理的である。
- ⑧図、表がある場合、それらは形式、内容ともに適切である。
- ⑨適切な引用、参考文献が、適切な方法で表示\*\*されている。
- ⑩研究倫理について、適切な配慮が行われている。

\* 様式とはSTUDENT HANDBOOKの「卒業論文」の項目に記載されているものをいう。

\*\* 文献の表示の方法は、基本的に日本社会福祉学会「社会福祉学」執筆要領に準じる。

#### 2. 「研究のプロセス」の評価基準

以下の細目をそれぞれ10点満点で採点し、合計が18点以上を合格とする。

- ①研究課題の理解度
- ②計画性、実行能力
- ③研究への取り組み姿勢

#### 3. 「口述試問」の評価基準

以下の細目をそれぞれ10点満点で採点し、合計が12点以上を合格とする。

- ①質問に対する理解度と回答の適切さ
- ②プレゼンテーション技術

## II. 評価方法

### 1. 「論文」の評価方法

指導教員が合否を評価する。合の場合 50 点、否の場合 0 点とする。

### 2. 「研究のプロセス」の評価方法

指導教員が、それぞれの項目を 10 点満点で採点する。

### 3. 「口述試問」の評価方法

指導教員と学科長から委嘱された教員 2 名により、それぞれの項目を 10 点満点で採点する。

## III. 卒業研究の合否判定と評価点

①3 つすべての項目に合格している場合、卒業論文合格とする。

②その場合、50 点 + (2. の項目の合計点) + (3. の項目の合計点)を卒業論文の評価点とする。

③指導教員は、合否及び採点結果を学科長に報告し、教務部へ採点登録する。(以上)